

日本航空が21/3期業績予想を公表 直ちに格付に影響ないが今後の業績動向を注視

以下は、日本航空株式会社（証券コード：9201）が21/3期業績予想を発表したことについての株式会社日本格付研究所（JCR）の見解です。

■見解

- (1) 当社は10月30日に、21/3期第2四半期決算とともにこれまで未定としていた通期業績予想を発表した。通期業績予想（IFRS）は財務・法人所得税前利益（EBIT）3,300～3,800億円の赤字（20/3期608億円の黒字）、親会社の所有者に帰属する当期利益2,400～2,700億円の赤字（同276億円の黒字）となっている。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、旅客需要が大きく減退していることが赤字予想の主因である。
- (2) 20年7月3日に公表した格付見直しにおいて、長期発行体格付の見通しを安定的からネガティブに変更した。当面は厳しい事業環境が続き、業績および財務内容が大きく悪化する見込みであることを見直しに反映させた。また、旅客需要の回復には不透明感が強く、今後の業績及び財務内容への影響度を注視していく必要があるとしていた。
- (3) 国内線の旅客数は徐々に増加しつつあるものの、国際線の旅客数は低迷が続いており、旅客需要の回復は鈍い。また、21/3期の最終赤字は20/3期末親会社の所有者に帰属する持分（1兆142億円）の4分の1程度に相当する見込みである。有利子負債の増加もあって、財務の諸指標が悪化することは避けられない。もっとも、21/3期末時点の財務構成は相応の水準を維持できる見込みである。また、健全な財務体質の再構築に向けて、コスト構造改革、収益性の向上、投資の圧縮などに取り組んでいる。取引金融機関の支援姿勢に変化はなく、資金面で特段の懸念はない。こうした点を踏まえ、現時点で直ちに格付を見直す必要はないと考えている。今後、旅客需要の動向や業績および財務内容の回復への見直しなどを確認しながら格付に反映させていく。

（担当）千種 裕之・水川 雅義

【参考】

発行体：日本航空株式会社

長期発行体格付：A

見通し：ネガティブ

■留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であることを問わず、当該情報の正確性、結果的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかなるものを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であることを問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいて行っております。JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

■NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会が定めるNRSRO（Nationally Recognized Statistical Rating Organization）の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。

■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.
信用格付業者 金融庁長官（格付）第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル